

■教育目的

「薬」に関係する薬学での自然科学における基本的な観察や実習を通じて、科学実験の基本的な考え方や態度と心構えを養い、同時に講義だけでは得られにくい科学の法則や理論を実体験を通じ、認識を深めることを目的とする。

【卒業認定・学位授与の方針：YD-②】

■学習到達目標

1. 化学実験で使用する器具の名称、取扱方法について説明できる(知識・技能)。
2. 科学実験における数値の処理法について説明できる(知識・技能)。
3. 液体有機化合物の精製法、固体有機化合物の精製法について説明できる(知識・技能)。
4. 薄層クロマトグラフィー、カラムクロマトグラフィーの原理について説明できる(知識・技能)。
5. 酸性、塩基性、中性有機化合物のそれぞれの化学的性質に基づいた分離法について説明できる(知識・技能)。
6. 科学実験における倫理観と安全性を理解し実践できる(知識・技能・態度)

■準備学習(予習・復習)

予習：実習書の該当ページを良く読み、どのような実験を行うのかを予め把握しておく(40分以上)。

復習：実験ノートに記載した実験操作、結果、考察、課題の解答等を読み返し良く理解しておく(40分以上)。

■授業形態

実習・フィールドワーク

■授業内容

No.	項目	授業内容	備考・SBOコード
1	測定とデータ処理	科学実験における「容積」と「重さ」の測定、そのデータの取り扱いと処理	
2	化学実験	実習の心構えと一般的注意、実習予定の説明	
3	実験器具の取り扱いとガラス細工	実験器具の名称、操作、取扱法・ガラス細工	
4	混合物の分離・精製	薄層クロマトグラフィー・カラムクロマトグラフィーによる混合物の分離と精製の実践	
5	化学実験操作1	混合物の抽出・分離と同定①(抽出、濃縮、精製、同定、確認)	
6	化学実験操作2	混合物の抽出・分離と同定②(抽出、濃縮、精製、同定、確認)	

■授業分担者

齋藤 望、杉原 稔、富永 大介、横屋 正志、岸田 敦、木村 真也、松永 和磨、大類 彩

■課題(レポート、試験等)のフィードバック及び成績評価方法

各実習終了後に提出するレポートをもとに、グループ単位で教員と実習内容について議論し、理解を深める(フィードバック)。実習への取り組み・毎回のディスカッション(25%)、実験ノート(20%)、レポート・課題(30%)、実習試験(25%)で総合評価を行う。

■教科書

実習書とプリントを配布する。

■参考書

『実験を安全に行うために(第8版)』化学同人編集部(編)(化学同人)